

JAS規格にて天然乾燥が追加されました。

乾燥処理について

人工乾燥処理は、人工乾燥処理装置によって人為的及び強制的に温湿度等の管理を行うこと、また、天然乾燥処理は、人為的及び強制的に温湿度を調整することなく適切な管理のもと、一定期間棧積み等を行うこと。

含水率の基準

人工乾燥処理製材の含水率の基準は、品目毎に温湿度環境に対応した平衡含水率（おおよそ10～20%）を目安に定められています。

天然乾燥処理製材の含水率の基準は、乾燥していない生材状態から、材が収縮しはじめる含水率30%以下と定められています。

繊維飽和点

木材の水分には、細胞壁内にある結合水と、その回りにある自由水があります。木材の乾燥では、まず自由水が蒸発して無くなり、次に結合水の蒸発が起こります。自由水が蒸発した時の木材の含水率は約30%であり、この状態を「繊維飽和点」といいます。「繊維飽和点」を境に木材は収縮や干割れなどの変化が始まります。

平衡含水率

さらに乾燥を続けると、最終的に安定して、含水率がそれ以上下がらなくなります。これを平衡含水率と言います。日本では季節によって違いがありますが、おおよそ15%前後とされています。



天然乾燥

人工乾燥